

## 実行委員長

## 創立百五十周年を祝して

創立百五十周年おめでとうございます。これもひとえに地域関係団体の皆様方、歴代の教職員の皆様方のご尽力とご支援の賜物と深く感謝いたします。

すばらしい伝統ある大門小学校で学び、多くの方々が築いて行かれましたが、私も本校の卒業生の一人です。私が六年生の時に百周年を迎えました。当時は、木造の一階建ての校舎で、児童数も三五〇名ほどの学校でした。理科室が後からプレハブで建てられ、きつとその頃から徐々に児童数が増えていったと思います。昔の面影といえは、校庭の桜の木やヒマラヤの木以外は、ほとんど残っていませんが、私の記憶の中では、つきりと蘇ります。そして、百五十周年までの間、年号は昭和から平成、令和と変わり、一九七三年武蔵野線の開通、二〇〇一年の埼玉高速鉄道の開業、それに伴い大門地区の生活環境は大きく変わりました。そんな時代の中でも、大門小学校は独自の伝統を守り、地域の学校として、愛され続けています。四年前から行われているチャレンジ強歩では、地域の皆様から積極的な協力を戴き、改めて子供たちは、温かく見守られていると実感いたしました。

今だに新型コロナウイルスの終息が見えない中、子供達の学校生活や家庭環境など、多くの心配な問題があります。今こそ「地域の子供は地域で育てる」の精神で、学校・PTA・地域が一体となって、取り組んでいく必要があると思います。

結びに、大門小学校のますますの発展を祈念し、百五十周年記念事業にご尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

## 開校百五十周年を迎えて

本校は、明治六年の開校以来、地域と共に発展を続け、今年度、百五十周年という大きな節目を迎えることができました。この栄えある歴史と伝統は、開校以来変わらぬご厚情とご支援をいただいている地域の皆様や保護者の皆様の愛情が根底にあります。また、歴代の校長先生方をはじめとする大門小学校に勤務された教職員の方々が営々と続けてこられたご奮闘があります。

歴史を振り返ってみますと、現在の大鐘寺の場所に大門学校として開校し、二度の移転から昭和三年に現在の野鳥の森の場所に校舎が設立されました。旧校舎が作られた際には、地域の職人の皆様が農業との兼業で建設に携わっていたにすぎません。さらに、地域の皆様の熱心な働きかけもあって、昭和五十四年から昭和六十二年の間に、現在の校舎等が完成しました。その後、美國小学校との分校を経て、現在に至っています。私も現教職員は、当たり前のように日々の教育活動を行っておりますが、百五十年前からの先人の方々の思いが、大門小学校には脈々と受け継がれており、この教育環境に感謝と敬意の意を抱くことが何よりも大切であると感じております。

今年度は、「笑顔いっぱい、みんなに愛される大門小学校」をスロガンとして、十一月には学びの自律と個別最適化の実現に向けて、SDGs教育研究発表会を実施します。また、コミュニティ・スクール先行実施校として、五年目を迎えた「日光御成道チャレンジ強歩」を青少年育成大門地区会・PTAと共催します。家庭・地域社会とともに、歩み続ける伝統ある大門小学校を目指し、教職員一丸となって一層の努力を重ねてまいります。

この度の記念式典並びに関係行事の開催にあたり、市当局並びに教育委員会をはじめ、惜しみないご支援を賜りました実行委員会の皆様、地域の皆様や保護者の皆様へ深く感謝を申し上げます。御礼のご挨拶とさせていただきます。

さいたま市立大門小学校長

石川 聡

さいたま市長

## 開校百五十周年を祝して

さいたま市立大門小学校が、開校百五十周年という記念すべき節目の年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

明治六年、名刹大興寺内に開校された「大門学校」が、大門小学校の起源とお聞きしております。以来百五十年間にわたり、保護者、地域と手を携えて子どもたちの健やかな成長のため、近年は学校歯科保健を軸として、英会話・英語活動、国語科、算数科等の研究と実践に取り組み、大きな成果をあげられております。平成三〇年からは、日光御成道チャレンジ強歩を実施し、学校、保護者、地域が三位一体となって子育てに取り組まれるなど、今日の確かな信頼と輝かしい伝統を築き上げてこられました。

このことは、歴代の校長先生をはじめとする教職員の皆様の情熱と努力はもとより、保護者、PTA、地域の皆様の本校へのご理解とご協力の賜物と、深く敬意を表します。

今、人類社会は大きな変革期を迎えております。あらゆる分野における技術革新によりSDGsの目標が進展していく一方、新型コロナウイルス感染症と人間との関わりは、予断を許さない状況が続いています。このように予測不可能な時代にあつて、私は常々子どもたちに、自ら主体的に物事に関わり、他者と共同して様々な困難や課題を勇気と叡智をもって乗り越えていけるよう、生涯にわたって質の高い学びを重ね、輝き続ける力を身に付けてほしいと願っております。

本市も誕生二十一年目となり、「上質な生活都市」「東日本の中枢都市」の実現に向け新たな一歩を踏み出したところです。我がまちさいたま市の輝かしい未来を、皆様と共に創っていきたいと思います。

大門小学校におかれましては、これまで築かれた百五十年の実績を礎に、「朝日」のほろ「大門」の世界に「ひろく 広い道 行こうよ みんな 胸張って 正しく さとく すこやかに」と校歌に謳われていくように、世界を舞台に堂々と活躍する人材の育成に向け、さらに素晴らしい歴史を積み上げられますことを、心からご期待申し上げます。結びに、大門小学校関係者、保護者、PTA、地域の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

さいたま市教育委員会 教育長

## 創立百五十周年を祝して

豊かな自然にまつまれた、さいたま市立大門小学校が、創立百五十年を迎えられましたことに心よりお慶びを申し上げます。

明治六年に「大門学校」として開校した大門小学校は、地域の皆様の温かい愛情に見守られ、伝統を受け継いでこられました。

自然とともに歩んだ歴史の一つとして、昭和から平成に至る長い間、「野生の生きもの」とふれあう学校」として、複数回にわたる埼玉県の研究指定により、恵まれた自然を生かした特色ある教育を積み重ねてこられました。さらに、創立百四十年周年を迎えた平成二十五年度には、保護者と地域の皆様のお力添えをいただきながら、子どもたちが米や野菜を育てる本物の体験活動を通して、環境や命の大切さを学ぶ「自然いっぱいハッピーファーム」を開設され、現在においては地域全体で大門の素晴らしさを後世へと繋ぐ教育として継続されております。

また、大門小学校では、百五十年という歴史を積み重ねる中で、その時代において先駆となる研究に取り組み、教育実践を市内の各学校に広めてこられました。直近では、平成十八年度の「さいたま市小・中一貫英会話」や平成二十五年度の「ASUKAモデル」委嘱校として、研究に邁進されました。さらに、令和二年度より市内初の研究指定校として「さいたまSDGs教育」の研究に取り組み、地域と協力的な「チャレンジ強歩」や自然環境を生かした栽培・飼育活動等、具体的な行動を通して「持続可能な社会の創り手の育成」に努めております。

このように、大門の豊かな環境を生かし、学校、家庭、地域住民が三位一体となって子どもたちを大きくむすは、子どもを中心とした教育活動の充実を注いでこられたこれまでの取組の賜物であると感謝申し上げます。そして、校歌の歌詞にあるように、子どもたちが胸を張って、この大門の学び舎から日本の希望としてはばたくことをご期待申し上げます。

結びに、これまで大門小学校の発展にご尽力いただきました歴代の校長先生をはじめ、教職員の皆様、保護者や地域の皆様に深く敬意を表し、お祝いの言葉といたします。

さいたま市緑区 区長

## 創立百五十周年を祝して

さいたま市立大門小学校が、このたび開校百五十周年という輝かしい年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

日光御成道の宿駅として江戸時代より栄えてきた「大門宿」に位置する大門小学校は、明治六年に明治新政府が目指す近代国家を担う人材を育成する学校として創立されて以来、時代とともに進化し続け、現在に至るまで多彩な卒業生を輩出されておりますことは、尊敬の念に堪えません。

さて、大門の西側に広がる見沼田んぼは、緑区を象徴する景観として親しまれており、その風景をモチーフに唱歌「案山子（かかし）」が作詞されたといわれていることは周知の通りです。緑区ではこのことになみ、毎年秋に区民の皆さんが作成した様々なかかしを展示する「緑区がかしランド」を開催しております。この事業には、大門小学校からも作品を出展していただいております。緑区のみならず、多岐にわたるご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。来年度の令和五年はさいたま市が政令指定都市に移行し、区制施行から二十年という節目の年を迎えます。大門村から美園村、浦和市、そしてさいたま市と、時代が変遷してもなお、大門小学校とその地域の方々が脈々と絆を紡ぎ、発展を遂げてこられたように、今後も地域の皆様と手を携えながら市政の推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

結びに、これまで大門小学校のために多くのご尽力をいただきました歴代の校長先生をはじめとする教職員の皆様、PTA、育成会並びに地域の皆様に深く敬意を表するとともに、「家庭・地域社会とともに、歩み続ける伝統ある大門小学校」の更なる発展をご祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

PTA会長

## 創立百五十周年にあたって

今年度、さいたま市立大門小学校がここに創立百五十周年を迎えられましたことを、PTAを代表いたしまして心よりお祝い申し上げます。また、私事ではございますが私自身、大門小学校の卒業生です。卒業した大門小学校の百五十周年という節目の年にPTA会長として周年事業に携わっていますことを、大変光栄に思うと同時に、大変身の引き締まる思いでいます。百五十周年という大きな節目を迎える事ができたのも、歴代校長先生を始めとする教職員の皆様、歴代PTA会長を始めとするPTA役員の皆様、会員の保護者の皆様、そして地域の皆様のご尽力の賜物だと思えます。これまで学校に携わってきた全ての皆様に感謝の意を表します。

さて、昨今世界中で新型コロナウイルスが流行し、誰もが想像しなかった世の中になりました。これまで当たり前だったことが当たり前ではなくなり、学校生活も様々な事が制限されました。そのような日々変化する世の中においても、大門小学校の子どもたちは、様々なことに疑問を持ち、一つ一つ解決しながらたくましく、そして笑顔で楽しみながら学校生活を送っています。コロナ禍前と変わらず元気に前向きに学校で過ごす様子は、地域にも元気を与えてくれます。

こうした子供たちの努力に報いるためにも、よりいっそう家庭・学校・地域の三者で連携し、変化する世の中においても安心して笑顔で学校生活が送れるよう、尽力していかなければと改めて感じました。ここ数年の未曾有の惨事を乗り越えてきた経験と糧に、未来を生き抜く力を身に付けて欲しいと思います。

結びに、大門小学校創立百五十周年に携わった全ての皆様に、心より感謝を申し上げますとともに、百六十、百七十、二百周年といつまでも地域の皆様に愛され、子供たちの笑顔が絶えない大門小学校であることを願いまして、創立百五十周年のお祝いの挨拶とさせていただきます。

## 開校百五十周年を祝して

大門小学校が開校百五十周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

大門小学校は、近代日本の黎明期に、子どもたちに新しい教育を施すために設立されて以来、地域の教育の担い手として中心的な役割を果たしています。大門小学校は、大門宿を代表する歴史ある街並みと豊かな自然に恵まれ、これらの環境を活かした学びが特色となっており、同校で学んだ子どもたちは、郷土への愛着や自然の中で培われた逞しさ、豊かな生命と寄り添った思いやりがあるように感じます。卒業生の中には、立派な大人となって地元に戻り、地域活性化の原動力となっている方もおり、コロナ禍により、地域コミュニティの維持が大変困難な中、先人が大切に受け継いできた伝統・文化を担い、住みよいまちづくりのために地域の活動に積極的に参加する大門小学校OB・OGの方々とともに頼もしく思っています。

また、大門小学校は、地域交流の拠点としても大変重要な役割を果たしています。コミュニティの醸成には、人と人との交流が不可欠であるところ、大門小学校は「ふれあい大門まつり」等の諸行事を通じて、多世代を「学校」という縁で結び、一堂に会する機会を設けてくれます。子どもたちの教育と地域交流を両立し、大門地区を支えて来られた歴代の校長先生をはじめ、教職員の皆様方の弛まぬ尽力に心から敬意を表します。

大門地区は現在新しいまちづくりが進んでおり、大門小学校はこれからも多くの子どもたちを受け入れ、地域の教育と交流の中心であり続けると思っております。地域の一員である自治会といたしましては、大門小学校の子どもたちが地域とふれあいの中で健やかに成長できるように、「地域」とともにある学校づくりを支援していきたいと考えております。

結びに、大門小学校の益々の発展と関係者の皆様の健康での活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 開校百五十周年を祝って

大門小学校は、明治五年の新しい学校制度施行の翌年、明治六年に開校されたと聞いていましたが、今年、「百五十周年」という輝かしく、偉大なる節目の年を迎えた事に対して、心の底からお喜び申し上げます。私が大門小に入学したのは、第二次世界大戦の終焉間近い昭和十八年でした。

私自身入学当時は、病弱だったこともあり小学校三年生までの記憶は乏しく、運動会が大嫌いだっただけは覚えていません。

ところが、四年生になって、誰に教わったわけでもなく、野球を覚えた途端に、野球にのめり込み、三年生までの病弱がウソのように健康になり、元氣な少年に変わっていた。

野球で人数が足りない時は、三角ベースといって、二塁ベースを省き、夕方、暗くなるまで遊んでいた。

その頃、大門小の校庭に野田小から子ども達が試合に来たが、勝敗は覚えていない。

一方、お祝いの話には、相応しくないかも知れないが、この機会に小学校での特殊な貴重な思い出として、残しておきたい事がある。

それは、私が上級生になったころ、二列に並ぶ校舎の中庭に、なぜか豚小屋が設置されて、一頭の元氣な豚君が来た。あたり構わず無心に餌をあさる姿が目につかびます。

誰かが豚を見ながら「豚はきれい好き」と云ったので、私は率先して一生懸命に豚小屋の掃除をした記憶があります。

当時、まだ、戦後間もない食糧難の時代に、このような体験とゆとりは懐かしく、現代の学習のハンリと云えるのかも知れません。

数少ない確かな記憶だけを遡って、遠い昔を懐んでみました。最後に大門小学校百五十周年と云う長期間に渡って、歴史と伝統を積み上げてこられた歴代の学校教育関係者の皆様のご尽力に対して、改めて深く感謝し、更には、今後の大門小学校の益々の充実、発展を祈念して、

思い出の「コマ」と、お祝いの言葉といたします。

## 大門小学校第二九代校長

## 「みどり野」より

さいたま市立大門小学校が、数多くの功績を上げつつ、百五十周年を迎えられたことに、敬意を表するとともにお祝い申し上げます。

今ここに、私が大切に保管している貴校PTA広報紙「みどり野」のバックナンバーがあります。その第七四号（平成七年七月）に私は、就任のあいさつ文を寄せています。

四月一日に着任しますと、期待以上のものが本校にはありました。ここには明るく元気で学習に取り組む児童と、着実な指導を展開している教職員がいます。また学校と共に前進するPTAと、親身になって学校を支えてくれる地域の方々があります。

次は、第七七号（平成八年七月）からです。私は、「大門」という言葉が大好きです。

それは、堂々とした門をいっばいに開け放ち、大勢の人々を幅広く招き入れ大きく発展していく、まさに希望という言葉の持つ前向きなイメージを感じるからです。

四半世紀前の文章ですが、当時の貴重な思い出とオーバーラップして、今でも私の目には輝いて映るのです。

## 大門小学校第三〇代校長

## 大門を築きたるにより大門の称は出たり

創立百五十周年、心からお喜び申し上げます。私は、平成九年から十一年までの三年間勤めさせていただきました。

歴代PTA会長さんや地域の方々に心に残る尽力をいただきました。図画工作科の研究では、地域ぐるみの教育として、親子ふれあい陶芸教室やサブウェイギャラリーの屋外展示等を行いました。社会科、生活科の研究では、地域の一人、物、自然、歴史を生かして、調べ学習や体験学習を多く取り入れました。「大門ふるさと先生」では、ゲストティーチャー等でご活躍いただきました。

地域としては、地下鉄七号線の浦和美園駅と埼玉スタジアム二〇〇二も完成しました。全職員で開通前の地下鉄トンネル内や完成直後のスタジアムを見学させていただき感激したことを鮮明に記憶しております。

これからも「地域と共に歩む学校」が求められています。大門小学校の発展をお祈り申し上げます。

## 大門小学校第三三代校長

## 今、成果がためされるとき

さいたま市立大門小学校創立百五十周年、誠におめでとございます。

私がお世話になったのは、平成十九年度より四年間でした。在職中、私は「将来、世界で活躍できる人になるための基礎を培う」という目標を掲げ、国際理解教育に取り組みました。埼玉大学の英語科学生を交えた英語授業、ユニセフの活動紹介（数種類の地雷の模型を見る等）、アフリカモザンビークとの絵画文化交流展などです。当時学んでいた子ども達は、丁度二十代となりあの頃よりもっと世界は身近になっています。現在、ロシアによるウクライナ軍事侵攻という驚くべきことが起こっています。

二十代になった子ども達が世界情勢に関心をもち、ウクライナ支援の寄付活動（赤十字、ユニセフ、世界食糧計画等）を始め、何かしらの行動をしてくれることを期待します。そしてそれが教育の成果であると、信じています。

今後の大門小の子ども達、保護者様、地域の皆様、先生方のご活躍を祈念いたします。

## 大門小学校第三四代校長

## かけがえのない思い出

大門小学校の創立百五十周年、誠におめでと  
うございます。心からお祝い申し上げます。

私は平成二十三年度から二年三ヶ月お世話に  
なりました。素直で笑顔の子どもたち、いつも  
ご協力くださった保護者や地域の皆様方、熱心  
な教職員に囲まれ、充実した毎日でした。

忘れられない思い出として、SSNの立ち上  
げがあります。着任一年目、大門小学校が多く  
の皆様方に支えられていることを感じ、新たに  
大門小SSNを組織したいと強く思いました。  
そして地域の皆様方のお力添えによりSSNを  
誕生させるとともに、SSNで百四十周年の諸  
事業を行えたことは生涯の宝です。

また、SSN全体会で「協議いただき、学校  
教育目標の「知」「徳」「体」に「コミュニケーション」  
」を加えることもできました。さらに、大門  
小学校の近年の取組である「日光御成道チャレ  
ンジ強歩」や「SDGs」の研究において、S  
SNの多くの皆様方に「尽力いただいていると  
伺い感謝しています。

結びに地域の宝である大門小学校の益々のこ  
発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

## 大門小学校第三五代校長

## 百五十周年の歴史を祝して

大門小学校が、創立以来着実に発展され、こ  
のたび百五十周年を迎えられましたこと誠にお  
めでとございます。

大門小学校在職中を振り返って特に思い出さ  
れるのは、学校行事や地域の行事に児童が目を  
輝かせて、笑顔で一生懸命に取り組んでいた姿  
です。運動会はもちろん、市内の小学校が参加  
する「サッカー大会」、「バスケットボール大会」。  
また、「昔遊び」、「おたのしみクリスマス会」、  
「秋のふれあい大門まつり」等、行事を挙げれ  
ばきりがありません。行事を通して「地域の宝」  
である子どもたちを保護者の皆様、地域の皆様  
が互いに手を携え、学校教育目標「心豊かで  
たくましい 大門小児童の育成」の具現化のた  
め、多大なご協力をいただいたことが、強く心  
に刻まれていきます。同時に皆様の力が子ども一  
人ひとりの笑顔につながっていたと感じており  
ます。

最後になりましたが、開校以来幾多の時代の  
流れの中で築かれた伝統を守り、今また次の時  
代に向けて躍動を続けている大門小学校のご発  
展を心よりご祈念申し上げます。

## 大門小学校第三六代校長

## 伝統の灯を掲げて、新たな未来の創造を

創立百五十周年を迎えられましたこと、心よ  
りお祝い申し上げます。校長時代、保護者や地  
域の方々のお力添えをいただきながら「花とあ  
いさつに囲まれみんな生き生きの大門小」を目  
指し、教職員一丸となって教育活動にあたった  
日々を思い出します。幾度となく、校庭の美し  
い花々や、子供たちの笑顔と美しい歌声に、心  
洗われる思いを抱きました。

これから時代は急速に多様化し、答えの無い  
課題に、他者と協働して納得解を導き出すこと  
が求められるようになります。伝統ある大門小の子供  
たちだからこそ、価値ある未来を創造すること  
ができると信じています。「我々の歴史の中に  
我々の未来の秘密がかくされている」という岡  
倉天心の言葉があります。大門小の長い伝統と  
歴史を大切に守り続けながら、校歌の歌詞の一  
節のように、みんなで胸を張り、新たな世界に  
ひらく広い道を、切り拓いていって欲しいと願  
います。

大門小の今後一層のご発展をお祈り申し上げ  
ます。

## 大門小学校第三七代校長

## 地域と共にある大門小学校

桜や樺、銀杏といった多くの樹木と、四季折々の草花に囲まれ大門小学校が、この度、開校百五十周年を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げます。

さて、私は平成三十年四月から令和三年三月までの三年間、お世話になりました。在籍中は、地域・保護者の皆様のご理解、ご協力と温かいご支援をいただき、明るく素直な子どもたちと充実した時間を過ごすことができました。今でも、運動会や音楽会、遠足等での子どもたちの頑張りが校長室で行った暗唱検定での真剣な表情を思い出します。

思い出の中でも、大門小の特色を生かした日光御成道チャレンジ強歩が実施できたことは、格別な喜びとして心に残っています。実施に当たり、何度も岩槻までの道を歩いたり、打合せを行ったりと、大変なこともありましたが、本陣の会田様や育成会の皆様を始め、多くの方々にも励ましやご支援をいただきながら、学校と地域が一体となった大門小ならではの行事が実施できました。今でも、ゴールした時の感動は、忘れられません。

大門小学校は、子ども、保護者、地域、そして教職員に愛されている学校です。今後も地域と共にある学校として、さらなる発展と地域の皆様及び大門小に関わる全ての方々のご多幸を祈念申し上げます。

## 第三五代PTA会長

## 大門小学校創立百五十周年をお祝いして

大門小学校が本年、創立百五十周年を迎えられました。心よりお祝い申し上げます。

さて、百五十周年と言葉で表しますと簡単ですが、明治にはじまり大正・昭和・平成・令和と激動の時代を駆け抜け、たくさんの方々がこの学び巣立っていかれました。

私も今を去ること三十数年前にこの大門小学校を卒業いたしました。当時から学校の周辺は緑豊かな自然に囲まれ、校内には樹齢約百年のヒマラヤ杉や野鳥の森があるなど、児童が心豊かであぐましく育ちのびのびと過ごせる環境がありました。

近年は周辺道路の整備が進み、地下鉄や大型商業施設ができるなど、時代の流れと共に少しずつその環境が変化してきました。今後より一層学校が発展していくには、古き良きものを残しつつ変化に柔軟に対応し、地域・学校・家庭が連携を密にしながら、未来ある子どもたちを温かく見守っていくことがとても大切だと考えます。大門小学校がこの先百八十年、二百年と益々発展することを祈念し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

## 第三六代PTA会長

## 大門小学校百五十周年を祝して

創立百五十周年、おめでとございます。大門小学校が明治六年に創立されてから、百五十年の節目となる日を迎えることができ、百五十とを、心よりお慶び申し上げます。創立以来、着実に歩み続け今日まで発展を築いてまいりましたのは、これもひとえに歴代の校長先生をはじめ、諸先生方、保護者・地域の皆様方の教育に対する期待と情熱、そして献身的なご指導の賜物であり、長年にわたるご尽力に心より感謝申し上げます。

さて、私は昭和四六年の卒業生になります。思い返せばあの頃は、木造校舎であり恵まれた自然環境の中でクラスメイトと伸び伸びと過ごしたことを思い出します。運動会や遠足、南側にあった雑木林には、やまがしが大量に発生したこともありました。また、当時からあつたNHKの連続テレビ番組「次郎物語」の撮影に使われた場所でもあります。毎年春には、学校の桜が見事に咲き誇り、卒業生の旅立ちと新生活を迎え入れ、人生の門出を幾度となく一緒に祝う成長を見届け続けていく桜の木のように、大門小学校も時代が変わるうとも変わらない教育の理念と伝統を守り続けてこられた証だと思います。

令和四年度、学校教育目標である「心豊かでたくましく、みんなに愛される大門小学校」を学び、鍛え、夢を育むことにあるように目標を持ち、大門小学校が二百年、三百年を迎えられ、ご挨拶とさせていただきます。

第三九代PTA会長

今までの百五十年、これからの百五十年

さいたま市立大門小学校創立百五十年、おめでとございます。心からお祝い申し上げます。開校した百五十年前とは、一八七二年（明治五年）日本初の鉄道が東京の新橋から横浜まで開通しました。そのような時に、大門小学校は誕生しました。

そして、二〇〇一年に浦和市・大宮市・与野市が合併してさいたま市になり、埼玉高速鉄道が開業し、浦和美園駅が誕生しました。二〇〇二年には、大門小学校は百二十周年を迎え、日本では、日韓ワールドカップが行われ、埼玉スタジアム二〇〇二でも、試合が行われました。その時は、世界中の人々がスタジアムに訪れました。

今年、大門小学校は百五十周年を迎えます。この百五十年間、多くの子ども達が入学、卒業しました。そして、これからも多くの子ども達が入学し卒業していくことでしょう。百五十年間地域に愛され、地域と共に歩んできた大門小学校。この伝統を受け継ぎ、これからも明るい未来に向かって歩んでほしいと思います。

◆◆◆◆ 歴代校長 ◆◆◆◆

| 氏名       | 就任年月     |
|----------|----------|
| 蓮見 貞麿    | 明治6年5月   |
| 平野 勤三    | 明治6年10月  |
| 林 雄輔     | 明治18年5月  |
| 夏目 吉代吉   | 明治21年5月  |
| 原 金三郎    | 明治22年7月  |
| 池畑 確男    | 明治28年4月  |
| 進藤 悳助    | 明治30年11月 |
| 中島 太郎左工門 | 明治31年11月 |
| 岡部 圓蔵    | 明治38年6月  |
| 坂本 岩三郎   | 明治38年7月  |
| 桑田 庄三郎   | 明治40年9月  |
| 星野 伸太郎   | 明治43年4月  |
| 飯豊 直維    | 大正11年4月  |
| 浅子 藤太郎   | 大正12年10月 |
| 三上 重禮    | 昭和5年8月   |
| 神田 金蔵    | 昭和17年4月  |
| 新井 安治    | 昭和19年4月  |
| 村山 正司    | 昭和20年6月  |
| 厚澤 勝己    | 昭和22年4月  |

| 氏名     | 就任年月    |
|--------|---------|
| 馬場 郁賀  | 昭和32年4月 |
| 石黒 硬   | 昭和38年4月 |
| 持田 哲夫  | 昭和43年4月 |
| 白畑 清   | 昭和46年4月 |
| 松本 美士  | 昭和51年4月 |
| 引間 美喜夫 | 昭和57年4月 |
| 白鳥 秀夫  | 昭和60年4月 |
| 池照 マサ子 | 昭和63年4月 |
| 宮崎 公雄  | 平成3年4月  |
| 飯田 一恵  | 平成7年4月  |
| 中井 博   | 平成9年4月  |
| 吉澤 敏昭  | 平成12年4月 |
| 水野 正史  | 平成16年4月 |
| 鈴木 範明  | 平成19年4月 |
| 宮原 孝   | 平成23年4月 |
| 岡村 洋彦  | 平成25年7月 |
| 石黒 真愁子 | 平成28年4月 |
| 茂呂 宏幸  | 平成30年4月 |
| 石川 聡   | 令和3年4月  |





原 金三郎



進藤 邦助



中島 太郎左三門



桑田 井三郎



星野 伸太郎



飯豊 直雄



浅子 藤太郎



三上 重徳



神田 金蔵



新井 安治

村山 正司

厚澤 勝己

馬場 郁賀

石黒 健

持田 哲夫

白畑 清

松本 美玉

引間 美喜夫

白鳥 秀夫

池田 マサ子

宮崎 公雄

飯田 一恵

中井 博

高澤 敏昭

水野 正史

鈴木 範明

宮原 孝

岡村 洋彦

石黒 真悠子

浅野 泰幸